

ロシアナのロシアな話—冬の訪れ編— ／いちのへ友里



イラスト 岩井正幸

キツネ、ウサギ、ミンク…。たっぷりとした毛皮“ドゥブリヨンカ”や毛皮の帽子“シューバ”、厚底で内側にも毛のついたブーツを身にまとい、まるで動物園みたいなモスクワの街角に、本格的な冬が訪れようとしています。

星の代わりにロシア正教会のタマネギ屋根みたいな飾りが付いたモミの木や、民話の世界からやってきたロシア版サンタクロースの“ジェット・マロース(寒波おじいさん)”と“スネグーラチカ(雪娘)”, 来年の干支であるネズミのモチーフ…。新年の1月1日と、そしてロシアでは1月7日のクリスマスを祝うため、街のショー・ウィンドーは日々美しくライトアップされていきます。

さてロシアでは、朝、昼、晩、と天気予報では気温が大きく表示されます。晴れか雨かを気にするよりも、どのくらい寒いのか気温こそが重要なのです。

またロシアでは、ジュースは冷蔵庫に入れません。ただでさえ冷える時期が長いためか、積極的に冷やすことにはどうも抵抗があるようなのです。

さらにロシアでは、よく建物の壁面が黄色や空色、黄緑色など明るいパステルカラーに塗られています。厚く垂れ込めた冬雲の下で、春の温かな太陽や生き生きとした新緑を想(おも)うのでしょうか。

そんなロシアの冬に備え、私も雪国青森からコートを持参しました。久しぶりに着る前にまずはクリーニングでもと決心してカウンターへ。

「いくらですか？」と尋ねると、おばさんはちらりと私のコートを見るやいなや、値段表を指さしました。表示を確認してビックリ！ 何と“夏物コート500ルーブル(約2500円)”と、書かれているではありませんか。「あの、これ冬物なんですけど…」。そう言うと、おばさんは首をひねりつつ「じゃ、こちらでどうぞ」と“冬物コート800ルーブル(約4000円)”を示しました。

寒い国に縁のある私でも、経験したことのないようなロシアの冬が、まもなくやってきます。

(モスクワ在住、ロシア国営放送「ロシアの声」アナウンサー)